

SUMMER

July 2016 no.151

Japan Association of Environment Assessment

# JEAS

## NEWS

## 特集

## 「IAIA 16 名古屋大会」

会長就任あいさつ	梶谷 修	2
副会長就任あいさつ	山本 芳幸・和田 仁志	3
新任役員の紹介		4

## 特集

IAIA16 名古屋大会の開催	5
JEAS展示ブース報告～ブース日記～	8
セッション参加報告	10
トレーニングコース参加報告	12
大会発表報告	14

アジア地域における環境影響評価に関する国際会議参加報告	15
-----------------------------	----

## エッセイ

山岳写真家の現場から 山岳写真家 村田 一朗	16
平成28年度通常総会／懇親会	18
1/2.5万植生図をもとにした新たな植生自然度について	20
環境アセスメント士紹介	21
栗原 幹雄 (自然環境部門) / 城内 智行 (自然環境部門)	
JEASレポート	22
JEAS資格・教育センター便り	23
お知らせ	24



第4回 JEAS フォトコンテスト入賞作品／「蔵王の夜」／撮影：高柳茂暢（アジア航測（株））



一般社団法人 日本環境アセスメント協会

## IAIA16 大会発表報告

JEAS 研究部会では、口頭発表セッションにおいて研究成果 2 題の発表を行った。1 題は自然環境影響評価技法研究会における生物多様性オフセット評価のケーススタディ事例の発表、もう 1 題は新領域研究会環境配慮ワーキンググループ (WG) における企業活動に資する自主的環境アセスメントの進め方の研究発表である。

以下に発表の概要及び各セッションの状況等について報告する。

### 自然環境影響評価技法研究会

大会初日の Quantifying biodiversity impacts and resilience potential というセッションに参加し、自然環境影響評価技法研究会の研究成果を発表した。聴講者は約 80 名であった。セッションの主題は、生物多様性の定量評価であり、特に予測評価の手法論について口頭発表・パネルディスカッションを通じて活発な議論が行われた。

口頭発表に先立ち、座長である田中章教授（東京都市大学）から、定量評価が環境影響評価や生物多様性オフセットに不可欠な基盤技術であるとの指摘がなされた。

次に、4 題の口頭発表が行われた。八木裕人氏（EA インターナショナル合同会社）からは、荒瀬ダム撤去事業におけるアユの生息地評価に関する事例が報告された。続いて、本研究会の研究成果である、里山生態系・里海生態系を対象とした生物多様性オフセット評価のケーススタディ事例を報告した。3 題目は、Gunter Pamela 氏（AMEC Environment & Infrastructure）より、アメリカにおける HEP を改良した新たな評価手法に関する報告がなされた。4 題目は、Sangdon Lee 教授（梨花女子大学）より、韓国における植生ベースの評価に基づく Ecological Restoration Cooperation Funds（生態系再生協力基金）の事例が報告された。

パネルディスカッションでは、定量評価手法は「質×面積×時間」という基本的枠組みの共通性は見られるものの、質の捉え方は、特定種をベースとする場合（例：HEP）と植生をベースとする場合（例：ハビタットヘクター法）等、多様なアプローチがあると整理された。いずれの手法でも、普遍的な適用が目指されているわけではなく、各国の自然や法制度等、地域の文脈に応じて試行錯誤しつつ手法が開発されていると感じられた。里山・里海という特徴的な生態系の評価を巡っても、欧米手法を参照しつつも、地域の文脈に基づく評価手法の構築が重要と考えた。

（レポーター：清水建設（株） 渡部陽介）

### 新領域研究会 環境配慮 WG

大会最終日の 5 月 14 日に「Impact assessment of small things」のセッションに参加し、JEAS の新領域研究会における環境配慮 WG の研究成果をメンバー代表者として発表した。

本セッションでは、発表題目が 4 つあり、インドのマラヤ地域における小水力発電事業における計画・承認時の住民関与方法等に関する題目（発表者：Diduck, Alan 氏）と高等教育等における社会的影響評価に関する 2 題目（発表者：Adusei, Kwadwo 氏）、そして筆者が発表した、企業活動に資する自主的環境アセスメントの進め方（英名：「Proposal of EIA for private business in Japan」）という題目であった。

本 WG では、これまでの研究成果のうち①民間企業向けの自主アセスガイドブックの検討、②環境認証・環境金融制度で求められる環境配慮と環境アセスメントとの関連、③ JEAS 版自主アセス認証制度創設の検討の 3 点に着目し、発表した。

聴講者は 30 名程度であり、質疑の中で、「民間企業が主体である組織が自主アセスを推進する方法を検討していることに関して評価する」とのコメントをいただいた。このことから、本発表を通じて、日本において環境アセスメントを推進する JEAS の取組を他国にアピールできたと考ええる。

また、本学会の JEAS ブースに展示していた本研究内容のポスターを見た参加者から、「アメリカのボストンにおいて自主アセスの認証制度があるので検討の参考になるのではないか」という情報・意見をいただいた。このように、今後 JEAS 版の自主アセス認証制度を検討していくうえで有益な情報もいただくことができた。

本発表を通じて得られた情報・意見を踏まえ、新領域研究会の環境配慮 WG の成果をとりまとめていきたい。

（レポーター：ドーコン（株） 土門優介）